

## 「干潟の貝を未来に残そう」 ～その1～

全国的に有名な桑名のハマグリは平成7年に漁獲量が1tを切ってしまい、絶滅の危機に陥りましたが、漁師達の様々の努力の結果、近年では漁獲量が徐々に増え、ハマグリ復活の兆しが見えてきました。

漁師達は増えてきたハマグリを再び絶やすことが無いよう、自ら厳しい漁獲制限や種苗放流を継続しています。

しかし、こういった漁業者の努力の裏で、遊漁者によるモラルのない採取が横行しています。

「このままでは苦勞の末に復活したハマグリがまた失われてしまう」と私たちは強い危機感と憤りを感じています。

そのため、遊漁者に干潟で貝を獲らないようにと訴えています、なかなか理解が得られないのが現状です。

私たちは先祖から受け継いだこの素晴らしい自然の恵みを後世に伝えたいと切に願っています。



保安部から指導される遊漁者

### 注意：海に入るみなさんへ

○貝を獲らないで下さい。

ハマグリ、アサリ、シジミを獲るなどの漁業権を侵害すると密漁になり、処罰されます。また、ジョレン等の漁具を使用することや、殻長3cm以下のハマグリ・殻長2cm以下のアサリを獲ることは、三重県規則違反となり、処罰対象となります。

この水域では、漁業権が設定され、漁業協同組合が貝類等の稚貝放流や漁獲規制などを行い、減少した資源の回復に取り組んでいます。特にハマグリについては、30年余りに及ぶ試験研究の結果、卵から稚貝まで育てる技術が確立し、大量に放流ができるようになり、名産ハマグリ復活への光が見え始めたところです。

桑名のハマグリを将来にわたって絶やさないためにもみなさんのご理解とご協力をお願いします。